

今年も行ってきました！ 大マグロック vol.12

## ～大間現地でも少しずつ変化が～



7月13・14日の両日、青森県大間町で12回目となる「大マグロック」、そして14日には現地集会が開催された。仙台から車で、4人で参加した。

今年の参加アーティストは11組で、初参加もけっこう多い。これも主催者のYAMさんの顔の広さと大マグロックへかける情熱のたまものだ。例年雨が多いのだが、今年は天気にも恵まれ、素晴らしい演奏に遠方から参加した人も酔いしれる。

13日の夜には、「大間で自由にみんなで語ろう2019」という集会が開かれ、函館市および函館市民による2つの大間原発差し止め裁判を担っている中野宏典弁護士のレクチャーのあと、参加者みんなで議論した。全国の原発の裁判はこのところ敗訴続きだが、中野さんは「やはり裁判に勝つには、裁判所の中だけではなく、運動の力・大衆的な広がりが必要だ」と強調した。また、自由討論では、青森の中道さんから毎年行っている大間町への申し入れの席で、副町長が「原発あるなしに関わらず、町としては町民の幸せを実現しなければならない」「残念ながら脱原発を唱える議員はいなくなったが…」と発言するなど、原発ありきという姿勢から変化を感じ取られるやりとりだったと紹介があった。また、前回知事選に立候補した医師の大竹進さんが、「無医村をなくす」という自らの公約を実現すべく、大間の隣の佐井村に診療所を開設したことを報告した。

14日の集会には350人ほどが参加。選挙活動のせいも、昨年よりも若干少ないが、それでも青森県はもとより、北海道や東京など各地から参加した。司会は、八戸でFMラジオで活躍しているという吉川三絵さん。トランスジェンダーのよねざわいずみさんの開会挨拶を受け、各地各層から発言を受ける。「女川から未来を考える会」の土屋聡さんは、「ぜひお子さん・お孫さんを連れてきてください。なぜなら、この原発の問題は次の世代に関わる問題だからです」「女川でお祭りをやります。反対集会ではないですが、地元の人と結びつきたいと思っています」と発言。また、今年の青森知事選に出馬した「市民連合あおもり」の佐原若子さんは、「高木仁三郎さんはかつて『日本の官僚は再処理工場を動かすほどバカではない』と言っていたが、官僚は頭よすぎてバカなんです。だまっていちゃいけないんです！」と訴えた。さらに原子力資料情報室の松久保肇さんや、函館の竹田とし子さん、北海道のマシオン恵美香さん、藤井俊宏さん、経産省前テントひろばの山本礼治さんなど10数人が発言した。最後に「1976年に大間町商工会が大間町議会に『環境調査』を請願してから43年たっても完成しない大間原発。あと6年や7年で完成できる訳がないし、完成させる訳にはいかない」という集会アピールを採択し、デモに移る。

いつものように思い思いの横断幕やプラカード、あるいは楽器をもって、時折歌を歌いながら大間の街を歩いた。なかなか表までは出てこないけども、おそらくは家の中で私たちの声に耳を傾けている現地の人々が必ずいるはずだ、との思いを込め、そしてまた来年の再会を誓って「大間の海を守ろう」と訴えた。

(今年は「仏が浦」も楽しんできたT)



# “人生を振り返る小さな旅”

—女川原発の廃炉をめざして！—

5月25日（土）、縁あって、「さようなら原発米沢のつどい（第61回）」で「女川原発の廃炉をめざして！—宮城の脱原発運動のあゆみ—」と題して、山形県置賜総合文化センター会議室で、25人の方にお話してきました。

今回『鳴り砂』2-100号記念として編集した資料集『女川原発の廃炉をめざして！』をもとに、1966年から始まった女川原発反対闘争の歴史を、大きく3つの時期にわけて説明しました。

まず第一期目は、1966年から1978年の12年間の女川漁協の漁業権をめぐる女川現地での闘い。土地は既に東北電力に買収されていたため、「女川原発設置反対女川・雄勝・牡鹿三町期成同盟会」など漁民を中心に、電力の金による幹部に対する買収工作や機動隊の弾圧にもめげず闘われた、6000名の決起集会、海上デモ、町内デモの様子等を、震災津波で多くの資料が流されたものの、町の歴史として女川町により制作され、かろうじて残ったCDの写真映像を交えてお話。



第二期目は、1979年スリーマイル島原発炉心溶融事故・1986年チェルノブイリ原発暴走事故～仙台・都市部での脱原発運動。1979年「反原発仙台の会」の結成—放射線に敏感な“むらさきつゆくさ”のように原発に敏感でありたいと思い命名した会報名や旗のエピソード、「女川原発差し止め訴訟原告団」、「女川原発訴訟支援連絡会議」と弁護団結成—提訴から2000年最高裁決定までの20年間の裁判闘争の歩みを、映像を交えながらお話。その後、「女川原発反対同盟」や「原子力発電を考える石巻市民の会」、「みやぎ脱原発・風の会」、「脱原発東北電力株主の会」等の電力等に対する活動を報告。

そして第三期目として、2011年3月11日福

島第一原発事故以降、全県の脱原発運動へ。震災・事故以降、県内各地に様々な団体が立ち上がり、指定廃棄物最終処分場反対・汚染廃棄物「試験焼却」反対などの闘いが全県にわき起こったこと、そして昨年は「女川原発再稼働の是非をみんなで決める県民投票を実現する会」の署名運動が全県的に展開されたことを報告。最後に、会報『鳴り砂』の由来をお話した。

「さようなら原発米沢」は、2013年4月27日から、ほぼ毎月1回講演会や映画会などの「つどい」を開催、活動してきました。2014年8月に女川原発PRセンターを見学し、“女川から未来を考える会”と交流。2016年6月には東北大学在学時女川原発反対で現地に泊まり込んで活動した小出裕章氏の講演会を米沢で開催し、約400名が参加。現在は、「避難者追い出し（住宅明渡し）訴訟」の支援活動も行なっています。

代表の高橋寛先生（元山形大学工学部教授）とは、40数年ぶりの再会でした。すでに『鳴り砂』2-098号に「“脱原発は福島から”一分断を乗り越えるために—」を寄稿して頂いています。

当日は、先生のご自宅で、太陽熱温水器で沸かした熱いお風呂を頂き、手料理や山形の地酒を頂きながら、震災時東北新幹線が止まり、小山駅で3日間足止めを食い、何とか車に便乗し帰ってきたおくさまの話や、福島から避難してきた方々の避難所にストーブ等を提供・支援したお話などを伺った。

翌朝、薪ストーブの火にあたった後、先生の希望で、車で一緒に福島県三春町の大河原多津子さんの直売所兼レストラン「えすぺり」を訪問した。改めて、原発事故時の避難の事や家族との葛藤、人形劇に託す思いを伺った。本人の著書『思いたっちゃんたら吉日—福島で5人の子どもを育てたかあちゃんの記録』と『原発事故から這いあがる！有機農業ときどき人形劇』の2冊を購入し、帰路に着いた。

久々に有意義な2日間の“人生を振り返る小さな旅”でした。

（空）

# 【女川原発アラカルト】

## 【5月】

20日(月) 『ふるさとを返せ』福島原発避難者訴訟控訴審第4回公判、仙台高裁101号法廷、「原告本人尋問」4名。

21日(火) 原子力規制委員会、女川原発2号機の新規制基準の適合性審査159回目会合を原子力規制庁で開催。東北電力、地下水位の低下設備などを改めて説明。規制委、「網羅的に漏れなく検討してほしい」と指摘、液状化評価などの再回答を求めた。

22日(水) 県、大崎市で6日に採取された野生コシアブラから190 Bq/kg、栗原市で8、10日に採取された野生コシアブラ6検体から340~500 Bq/kg、丸森町(旧耕野村、旧丸森町、旧小斎村、旧筆甫村、旧大内村以外の区域)で8日に採取された野生タケノコから140 Bq/kg、栗原市(旧築館町、旧高清水町、旧瀬峰町、旧志波姫町、旧若柳町、旧一迫町以外の区域)で14日採取された野生タケノコ4検体から120~210 Bq/kg、大崎市で7日に採取された野生タラノメから160 Bq/kg、栗原市で8日に採取されたタラノメから110 Bq/kgの放射性セシウムをそれぞれ検出したと発表。

丸森町、3回目の甲状腺検査の結果を公表。新たに1人が甲状腺がんと診断された。町の検査では4人目。

25日(土) さようなら原発米沢のつどい(第61回)、「女川原発の廃炉をめざして!—宮城の脱原発運動のあゆみ—」講師 須田剛氏(みやぎ脱原発・風の会)、山形県置賜総合文化センター301号室。25名参加。

26日(日) エネシフみやぎ、♪♪春のエネシフカフェ♪♪「太陽光発電のこれから~自家消費モデルとソーラーシェアリング~」、仙台市市民活動サポートセンター研修室5、くプログラム) 話題1「太陽光発電は今どうなっている?」環境エネルギー政策研究所首席研究員 松原弘直氏/話題2「ソーラーシェアリングって?」飯館電力株式会社専務取締役 近藤恵氏/話題3「自家消費モデルの可能性」みやぎ地域エネルギー合同会社代表 浦井彰氏。

日本キリスト教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ、「第61回こども甲状腺エコー検査じょっこ検査」、石巻中央公民館、主催:子どもの健康を考える会・いしのまき、協力:宮城県民主医療機関連合会。検診医/矢崎とも子医師(坂総合病院内科・消化器科)。31名が受診。

27日(月) 「生業を返せ、地域を返せ!」福島原発訴訟控訴審第1陣、仙台高裁が「浪江」「富岡」の現地検証。

28日(火) 日本聖公会「原発のない世界を求める国際協議会」実行委員会、公開講演会「脱原発のドイツに学ぶ」講師ミランダ・シュラーズさん、仙台基督教会、講演は日本語。約120名参加。

29日(水) 県、気仙沼市で9、13日に採取された野生コシアブラ2検体から160 Bq/kg、140 Bq/kg、七ヶ宿町で16日に採取された野生コシアブラから170 Bq/kg、大崎市で14日に採取された野生ゼンマイ2検体から150 Bq/kg、110 Bq/kg、丸森町(旧耕野村、旧丸森町、旧小斎村、旧筆甫村、旧大内村以外の区域)で13、17日に採取された野生タケノコ7検体から130~420 Bq/kg、栗原市(旧築館町、旧高清水町、旧瀬峰町、旧志波姫町、旧若柳町、旧一迫町以外の区域)で14、15日に採取された野生タケノコ15検体から130~550 Bq/kg、加美町で13日に採取された野生ワラビから630 Bq/kgの放射性セシウムをそれぞれ検出したと発表。

30日(木) 規制委適合性審査160回目会合。重要施設の大規模損壊に関しては、テロ対策を含むとして非公開。

同日、規制委適合性審査161回目会合。東北電力、重大事故対策の原子炉格納容器の過圧破損を防ぐフィルター付ベント装置、原子炉建屋の水素爆発防止対策を改めて説明。規制委、大筋で了承。原子炉建屋内の壁面の穴に取付けた板「ブローアウトパネル」の設計方針等の説明には、整理が不十分として追加説明を求めた。

東北電力、固定価格買い取り制度(FIT)の期間(10年)を終えた住宅用太陽光発電の余剰電力を、11月以降、1日あたり9円で買い取ると発表。

公正取引委員会と経済産業省、電力販売の適正な競争を促すためのガイドラインを改定。7月に「ベースロード市場」を導入。

31日(金) 「第149回女川原子力発電所環境保全監視協議会」、TKP ガーデンシティ仙台勾当台2階ホール1。

## 【6月】

3日(月) 県技術審査会、石巻市にレノバ(東京)が計画する木質バイオマス発電所の環境影響評価について、排ガス対策や燃料の悪臭調査の実施を求める答申案。

原子力規制委員会、女川・東通原発の原子炉施設保安規定の変更(2019年3月1日認可

申請)を認可。「保安に関する組織」等の記載内容の変更。具体的には、原子力防災業務のさらなる強化および責任の明確化を目的として、新たに女川原発に「防災グループ」および東通原発に「防災課」を設置。女川1号機の廃止等の状況変化等を踏まえ、女川原発の一部組織を統廃合。

4日(火) 規制委適合性審査 162 回目会合。東北電力、耐震設計のうち地盤の液状化による影響の検討結果について改めて説明。規制委、検討対象施設に原子炉建屋が含まれていないことなどから、施設の抽出方法を詳しくするよう求めた。

5日(水) 原発問題住民運動県連絡センター、女川原発再稼働 STOP 街頭署名活動、平和ビル前。約 20 名参加。

県、大崎市で5月18日に採取された野生コシアブラから 540 Bq/kg、気仙沼市で同 20 日に採取された野生コシアブラから 140 Bq/kg、丸森町で同 24 日に採取された野生ゼンマイから 440 Bq/kg、丸森町(旧耕野村、旧丸森町、旧小斎村、旧筆甫村、旧大内村以外の区域)で同 23 日に採取された野生タケノコから 120 Bq/kg、栗原市(旧築館町、旧高清水町、旧瀬峰町、旧志波姫町、旧若柳町、旧一迫町以外の区域)で同 22、27 日に採取された野生タケノコ 6 検体から 120~240 Bq/kg、大崎市で同 18 日に採取された野生ワラビから 230 Bq/kg、加美町で同 20、27 日に採取された野生ワラビ 3 検体から 260~530 Bq/kgの放射性セシウムをそれぞれ検出したと発表。

6日(木) 脱原発仙台市民会議、郡和子仙台市長に「東北電力株保有に関する件ならびに東北電力株主総会における仙台市の議決権行使に対する要請書」を提出。女川原発2号機再稼働に反対し、東北電力の株保有をやめ再生可能エネルギーに投資すること等を求めた。秋保町石神町内会も要望書提出。市民32名参加。

7日(金) 宮城県働く人の健康と環境改善を進める会、「原発労働者の健康問題」、講師各務竹康氏(福島県立医大准教授)、仙台市戦災復興記念館4F第1会議室。約40名参加。

「第17回女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会」、ベルエア会館501会議室。中嶋県議含む市民9名+記者2名傍聴。

東北電力、「女川原子力発電所1号機定期安全レビュー(第3回)の実施結果について」を発表。定期安全レビューは、「実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則」および「原子炉施設保安規定」に基づく保安活動の一環として、原子炉設置者が10年を超えない期間

ごとに、原子力発電所の安全性・信頼性を総合的に評価するもの。評価対象期間2008年4月1日~2018年3月31日。

8日(土) 放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク『学習交流会』、「福島原発災害にどう向き合うのか?」、栗原市市民活動支援センター多目的室。午後、「栗原市内放射性指定廃棄物と汚染土壌の2つの保管場所見学会」を実施。

東日本大震災復興みやぎ県民センター総会、仙台市戦災復興記念館2Fホール。

11日(火) 規制委適合性審査 163 回目会合。東北電力、非常用海水ポンプ室の上部に設ける竜巻防護ネットの構造と落下対策結果を改めて説明。規制委、追加説明を求めた。

12日(水) 東北電力、県・女川町・石巻市ならびに登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町に5月分の女川原発の点検状況報告。東北電力、名取変電所(出力90万<sup>キロワット</sup>)の営業運転を開始。愛島周辺住民に電磁波による健康被害!!

13日(木) 『ふるさとを返せ』福島原発避難者訴訟控訴審、仙台高裁裁判官3人が住民らと帰還困難区域の双葉町など5町を現地検証。

15日(土) 女性ネットみやぎ、「女性ネットみやぎ」7周年記念、武藤類子さん講演会「原発事故から8年福島の現状と判決を迎える東電刑事裁判」、仙台弁護士会館4Fホール。雨の中約130名参加。

18日(火) 女川原発の避難計画を考える会、県及び石巻市に、合同公開説明会開催の要望と同避難計画の実効性に関する11項目の第三次公開質問書を提出。午後、脱原発をめざす宮城県議の会、「女川原発避難計画勉強会」、講師「考える会」顧問小野寺信一・松浦健太郎両弁護士、議事棟応接室。

20日(木) 規制委適合性審査 164 回目会合。東北電力、重大事故の発生頻度や影響の算定に用いる確率論的リスク評価(PRA)による津波評価、重大事故の対処に必要なアクセスルートの仮復旧方法について追加説明。規制委、おおむね了承。

21日(金) 規制委適合性審査 165 回目会合。東北電力、重要施設の基礎地盤と周辺斜面の基準地震動に対する安定性評価について改めて説明。規制委、資料の充実を求めた。

秋田の再生可能エネルギー発電事業者、送電線接続の際の工費全額負担は不当と、東北電力に工事負担金の返還を求める訴訟を、仙台地裁に提訴。全国初。

25日(火) 規制委適合性審査 166 回目会合。

東北電力、原子炉建屋をはじめ重要施設周辺で地下水位の低下設備や対策などを改めて説明。規制委、可搬型設備が十分かどうか再考することなどを求めた。

26日(水) 東北電力(株)第95回定時株主総会、電力ビル7階電力ホール。2時間38分。脱原発東北電力株主の会、10名参加。

仙台市、脱原発仙台市民会議「東北電力株保有に関する件ならびに東北電力株主総会における仙台市の議決権行使に対する要請書」(6月6日提出)に対し、メールで「(原発は)国策として取組まれてきた」という理由で、自らの判断を放棄し、株主の会の提案に「反対した」と回答。

27日(木) 規制委適合性審査167回目会合を非公開で開催。東北電力、航空機衝突やテロなどへの具体的な対策を説明。

29日(土) 放射能問題支援対策室いずみ、「第62回こども甲状腺エコー検査in名取」、日本キリスト教団名取教会。検診医/寺澤政彦医師(てらさわ小児科・仙台市)。72名が受診。

30日(日) 脱原発仙台市民会議、「宮城県の放射能汚染と内部被曝」講師三田常義氏(みんなの放射線測定室「てととと」)、栗原・大崎・仙南各地からの報告、仙台市シルバーセンター7階第1研修室、共催口放射能汚染廃棄物「一斉焼却」反対宮城県民連絡会/NPOきらきら発電市民共同発電所。約70名参加。

## 【7月】

1日(月) JR東日本、東北6県の電車の運行に必要な電力を、グループの発電所でつくった再生可能エネルギーで賄う目標を公表。

3日(水) 原発問題住民運動県連絡センター、女川原発再稼働STOP街頭署名活動、平和ビル前。

4日(木) 規制委適合性審査168回目会合。東北電力、原子炉建屋内にあるディーゼル発電機用の軽油タンク1台を追加設置する方針を説明。また、非常用海水ポンプ室の上部に設ける竜巻防護ネットの構造を改めて説明。規制委から異論は出なかった。

参議院選挙公示(7月21日投票)。

5日(金) 公益財団法人東北電業会、「エネルギーふれあい講演会～天気の人達がみた、異常気象と地球温暖化～」講師天達武史さん(気象キャスター)、江陽グランドホテル。

6日(土) みやぎ脱原発・風の会公開学習会vol.14「どうする 女川原発・核のゴミ?～1号機廃炉と2号機再稼働のねじれた関係～」講師澤井正子さん(元原子力資料情報室スタ

ッフ)、仙台市市民活動サポートセンター6階セミナーホール。約50名参加。

10日(水) 東北電力、県・女川町・石巻市ならびに登米市・東松島市・涌谷町・美里町・南三陸町に6月分の女川原発の点検状況報告。

11日(木) 脱原発仙台市民会議、仙台市財政局財政課担当者等と「東北電力株主総会議決権行使」の回答説明会、上杉分庁舎2階第1会議室。仙台市の対応の誤りを指摘。27名参加。

12日(金) 未来のためのエネルギー転換研究グループ、国会内で原発ゼロへの具体策をまとめた提言を発表。東北大学の明日香壽川教授、「再エネの導入量など現実的な推計に基づき総合的な提案にまとめた。」とコメント。

16日(火) 『ふるさとを返せ』福島原発避難者訴訟控訴審第5回公判、仙台高裁101号法廷、「原告本人尋問」。

18日(木) 女川から未来を考える会、女川町内に「夏の文化祭」チラシ配布。6名参加。

20日も。

(空)

## ●脱原発みやぎ金曜デモ

### 【5月】

26日(日) 第326回「日曜デモ」、先日、東京電力は外国人労働者を福島第一の廃炉作業に使用する意向を表明したが、多くの反対の声に押され、5月22日見送りを発表、私たちは福島原発の廃炉作業に外国人がたずさわることに強く反対しますと、30度を超える真夏のような暑さの中、元気に「女川原発もうやめよう!」と声を上げ、肴町公園から25名の市民が参加。

31日(金) 第327回「金曜デモ」、規制委員会での女川原発2号機の審査はすでに161回となり、これまで合格となったどの原発の審査より多くなっているのはなぜか? それは、女川原発が東日本大震災で大きなダメージを受けた「被災原発」だからで、こんなに審査に時間がかかり、また対策に巨額のお金がかかるのであれば、1号機に続き、2号機も廃炉にすべきではないでしょうか? 震災からまる8年が過ぎ、この間私たちは原発の電気を全く使わずに暮らしてきました、このまま「原発のない東北の復興」をみんなの手で作りだしましょう!と、肴町公園から25名の市民が参加。

### 【6月】

7日(金) 第328回「金曜デモ」、脱原発東北電力株主の会が、6月26日開催の東北電力株主総会に向け、「原子力事業からの撤退」「東海第二原発を保有する日本原電との契約破棄」「再稼働にあたってのUPZ自治体との事前協議」など重要で真つ当な株主提案を行っていますと、錦町公園から25名の市民が参加。

14日(金) 第329回「金曜デモ」、電力消費が落ち込む中、いまや原発に固執しては、経営の先行きが不透明になるばかりではないでしょうか？ 東北電力そして大株主の仙台市が、この株主の会の提案に真面目に向き合うよう、訴えていこうではありませんか！と、勾当台公園野外音楽堂から25名の市民が参加。

23日(日) 第330回「日曜デモ」、一番町では手をふってくれる人も！ 梅雨の合間の晴れ間のなか、元気よく脱原発を訴え、錦町公園から25名の市民が参加。

28日(金) 第331回「金曜デモ」、原発に頼っているのは、電力会社の未来がないことは、もはや明らかではないでしょうか？ 東北電力の大株主の仙台市は、株主の会の提案になんと反対しました！ 私たちは、この脱原発の世論を無視し、東北電力の意向を忖度する仙台市の姿勢を認めることはできません！と、雨の中にもかかわらず、勾当台公園野外音楽堂から30名の市民が参加。

### 【7月】

5日(金) 第332回「金曜デモ」、4日参議院選挙公示、仙台市の中心街で、原発止める議員を選ぼう！ 原発なくす議員を選ぼう！とコールを上げ、勾当台公園野外音楽堂から30名の市民が参加。

12日(金) 第333回「金曜デモ」、梅雨の晴れ間の中、元気に仙台市中心部の一番町で「危険な原発もうやめよう」、福島県と復興庁は県民・被災者の命と生活を守る責任者として、懲罰的な「2倍家賃」請求を撤回し、当該世帯の人々に誠実に向き合い、退去の条件が整うまで入居継続を保障することを強く要求しますと、勾当台公園野外音楽堂から30名の市民が参加。

19日(金) 第334回「金曜デモ」、勾当台公園野外音楽堂から25名の市民が参加。

◆(旧古川地域) 脱原発大崎demo金曜行動・毎週金曜17時半集合・あさひ中央公園

◆(塩釜地域) 塩釜脱原発デモ・毎週金曜17時半集合・下馬駅裏宮城民医連事業協前17時45分デモ出発

◆(仙台長町地域) 原発も戦争もNO！たいは

くアクション・第3水曜日17時半～蛸薬師境内集合後デモ行進

◆(岩沼市) 原発ゼロ岩沼歩き隊 毎月第3金曜15時～岩沼駅東口広場

## ●汚染廃棄物「試験焼却」をめぐる動き

### 【5月】

25日(土) 宮城県食健連・宮城県農民連共催、終わらない原発被害！！～裁判闘争に立ち上がった池月の住民との交流。

### 【6月】

4日(火) 放射能汚染廃棄物の焼却差止め大崎住民訴訟第4回公判、仙台地裁101号法廷。原告弁護士4名、原告+市民約50名傍聴+記者3名。被告大崎組合弁護士2名+職員8+8。報告集会、仙台弁護士会会館4階会議室。

17日(月) 南三陸町、町議会定例会で、400Bq/kg以下の汚染牧草をすき込みで処理する実証実験を9月から行なう方針を提示。

### 【7月】

3日(水) 色麻町の早坂利悦町長、記者会見で、汚染牧草を集約し、堆肥化処理する候補地を再検討する考えを表明。

19日(金) 仙台高裁(山本剛史裁判長)、大崎試験焼却中止の仮処分の即時抗告審で、住民側即時抗告却下の不当決定。住民側、仙台弁護士会館で記者会見し抗議。

(空)

『鳴り砂』2-101号(通巻280号)別冊

2019年7月20日

発行●みやぎ脱原発・風の会

〈連絡先〉〒980-0811

仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター内

レターケース No.76

電話&FAX 022-356-7092(須田)

<http://miyagi-kazenokai.com/>